

第38回関東甲信越静公民館研究大会

「新しい時代を拓く公民館の

あるべき姿」をテーマに

千三百余名が木更津市民会館に集う

大会は、去る8月28日(木)29日(金)の二日間にわたって千葉県公民館連絡協議会の主管により木更津市民会館を主会場として開催された。

参加総数千三百余名が一堂に会し、「新しい時代を拓く公民館のあるべき姿を探る」をメイン

大会は、去る8月28日(木)29日(金)の二日間にわたって千葉県公民館連絡協議会の主管により木更津市民会館を主会場として開催された。

この大会の特色の第一は、事前広報を大々的に行なったことで、3月「関プロだより」第1号を発行、いざ来たれノ怒涛逆巻く千葉県へノと呼びかけ、大会概要を紹介し、5月「関プロだより」第2号では、

研究大会に向けての各実行委員会の取組み内容と、各分科会発表者からのメッセージを掲載紹介し、大会気運の

盛り上げに懸命に努めていた。特色の第二は、大会当日一都十県の交流を図ることを目的として、会場に展示交流コーナーを開設、各都県公民館活動の成果をまとめた学習記録集、研究取録、活動報告書、ポスター、ちらし、公民館だより等を展示紹介したことは、画期的な試みだった。

盛りに上げたに懸命に努めていた。特色の第二は、大会当日一都十県の交流を図ることを目的として、会場に展示交流コーナーを開設、各都県公民館活動の成果をまとめた学習記録集、研究取録、活動報告書、ポスター、ちらし、公民館だより等を展示紹介したことは、画期的な試みだった。

盛り上げに懸命に努めていた。特色の第二は、大会当日一都十県の交流を図ることを目的として、会場に展示交流コーナーを開設、各都県公民館活動の成果をまとめた学習記録集、研究取録、活動報告書、ポスター、ちらし、公民館だより等を展示紹介したことは、画期的な試みだった。

本県担当分科会

第14分科会「環境学習

坂井輪地域学研究会の「ごみ問題について」

本県が担当した第14分科会は「環境学習」で、

発表者 飯塚 謙助様
(新潟市坂井輪地区公民館運営審議会委員)

司会者 吉田 英延様
(西新潟市民会館長)

助言者 佐藤 貞正様
(新潟県社会教育協会副会長)

によって充実した研究討議の展開がなされた。

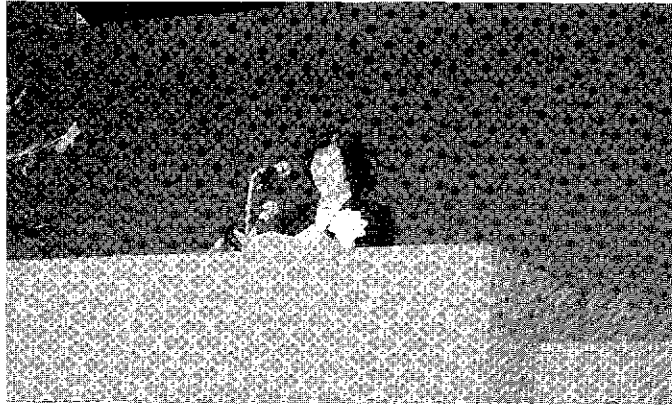
この分科会のねらいは、現代

社会の課題である環境問題を公民館でどう事業化し、展開すべきかを考えることであり、討議の柱を①住民の環境学習と公民館の接点について、②公民館における環境学習の展開について、③環境学習を支える公民館の役割について等の三点から討議を深めていった。

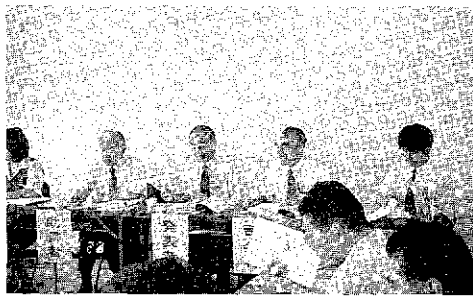
なお、飯塚様の発表内容は、月報七月号特集欄で既報済み。

なお、飯塚様の発表内容は、月報七月号特集欄で既報済み。

なお、飯塚様の発表内容は、月報七月号特集欄で既報済み。



関プロ初の女性会長、金子陽子様の開会あいさつ



本県担当第14分科会
環境学習部会での発表・討議

下越地区公民館関係役員研修会案内

- 1 研修テーマ 「地域課題解決のための公民館のあり方」
～人づくり・地域づくりを目指して～
- 2 主催 下越地区公民館連絡協議会
- 3 共催 新潟県教育委員会・新潟県公民館連合会
三市中蒲原郡・東蒲原郡市町村教育委員会
- 4 期日 平成9年9月25日(木)～26日(金)
- 5 会場 [第1日] 分科会、情報交換、宿泊会場
東蒲原郡鹿瀬町11856 角神温泉 ホテル角神
☎02549-2-2610 (FAX 02549-2-2613)
[第2日] 講演会場、見学会場
東蒲原郡津川町大字津川3501-1
津川ふるさと交流川屋敷及び津川狐の嫁入り屋敷
☎02549-2-2560 ☎02549-2-0220
- 6 参加者 公民館(地区館・分館を含む)の館長、副館長、館長補佐、職員及び公民館運営審議委員
- 7 日程

12:00 13:15 13:45 14:15 14:30 16:30 18:00 20:00

9月25日(木)	受付	開会式	基 提	講 案	移 動	分 科 会	休 憩	情 報 交 換 会
----------	----	-----	--------	--------	--------	-------------	--------	-----------------------

8:00 8:45 9:15 10:00 11:00 11:20

9月26日(金)	移 動	分 科 会 報 告 講 評	狐の嫁入り屋敷 見学とVTR 解説	講 演 会	開 会 式	解 散
----------	--------	---------------------------------	-------------------------	-------------	-------------	--------

- 8 基調提案者 講師 新潟大学教育学部教授 斎藤 勉 様
- 9 分科会 第1 第2 第3 第4
(館長等) (職員等) (公連審) (初任者等)
- 10 講 評 下越教育事務所社会教育課長様
- 11 VTRと解説 『津川町・狐の嫁入り屋敷見学、VTR視聴と解説』
- 12 講 演 講師 津川町長 澤野 修様
- 13 参加費 資料代 2,000円
宿泊・情報交換費 13,000円
情報交換費のみ 8,000円
- 14 事務局 ☎956 新津市京町2丁目5-6 新津市中央公民館内
下越地区公民館関係役員研修会事務局
☎0250-22-9666 (FAX 0250-22-9616)

県社会教育委員会会議

会議報告抄 ③

会長 今井昭友



報社取締役が選出された。協議事項は現代的課題に対応した公民館のうち高齢化と国際化への対応が話されたと聞く。

◇原田議長辞任、新議長に尾島氏

事務局体制も移管す

しばらく報告が途絶えていた

が、①第3回会議(日九、一、二四)は、公民館の現状について

の説明と、今回初めて委員全

員による公民館についての意見

発表の場が設けられた。②第四

回会議(二、一八)は、青少年

の学校外活動と公民館をテーマ

と、③第五回会議(六、五)は新潟市の公運審議

会があり欠席。会議は議長辞任

(原田議長、四月一日付で県監

査委員に任命)に伴う委員の交

代と後任議長に尾島静樹新潟日

報社取締役が選出された。協議

事項は現代的課題に対応した公

民館のうち高齢化と国際化への

対応が話されたと聞く。

以上が概略であるが、未だ実

質審議に至らず、委員の欠席も

目立つ。又、四月から、この会

議の担当が成人教育係から生涯

学習振興係に移管された。とに

かく、この辺で腰を据えて論点

を絞るべきと、「総花的」に

なる恐れがある。それにしても、

今後の審議の方向について新議

長ともども英知を結集せねば、

と思う今日この頃である。

視点

私の勤め

入る機会も体験もない

若者達に次のような行

動が見受けられる。

○全く体を洗わないで

そのまま浴槽へドボン

○シャワーを頭から浴

びシャンプー、ソープ

所に出でくる。

○浴室で上り湯を使わ

ず、体を拭かずに脱衣

用(女)

一人を使う風呂しか

知らず、誰に遠慮もす

ることなく豊富に湯を

使い、終ればバスタオル

一枚身に付けて自分

の部屋に戻りゆっくり

と着替えをする。こん

な生活が当然な彼等に

に、共同浴場はこうし

ユース・ホステルの入浴点描

内山 功一

て、友達や全く知らない

である入浴風景について

いる。その生活の一つ

の泡立ちを洗い流すま

でに10分前後かかって

もシャワーは流し放し

○Tシャツや水着を着

ての入浴、シャワーの

利用(男・女共通)

○脱衣所でバスタオル

濡れたTシャツやバ

スタオルから滴が降り

落ちたまま脱衣棚に放

置される部屋は水浸しと

これは各家庭での内

風呂とバスタオルを身

回顧・展望

飯田 信雄



一昔前の「公民館講座のこ案内」生活の見直し推進申合せ事

項」を手にした。初心者のため

の「〇〇講座が目玉を引く。

豊かな時間を過ごそうと呼

びかけている。自主グルー

プの紹介もある。みんな

盛りたて楽しい講座にしよ

う、と。

爾来十年、講師・教室生

共々意気軒昂、初心を貫き

益々学びの炎を燃やしてい

る努力派。新しい教室の誕

生等、興味は尽きない。当

初の講座は歳を重ね自主グ

ループに変身。講座の趣旨

にそった歩みに拍手を送り

たい。

「生活の見直し事項」には◎

冠婚葬祭の簡素化◎きれいな町

づくり◎時間◎あいさつの励行

等、世直し運動を見る。

光と影は世の習い。学級生の

高齢、特定化。ニーズに感える

「〇〇集会」の企画運営の難し

さ。就中、「公民館はカルチャー

センターではない」の声にも応

えなければならぬ。

ひるば

八月より広域の新統却炉

の稼働。ゴミの有料・分別・

減量化に伴い違反行為が統

出。行政・住民共々頭を抱

えている。住民のモラル・

自覚が問われる正念場であ

る。対処の名案があれば足

非お教え願いたい。

官僚・証券マンの無軌道

ぶりを始め、教育・環境・

省エネと課題は山積、痛恨

の極みである。

私共は消費は美德の暮し

に麻痺し、人としての本分

を忘れた愚かさを恐れる。

震撼させられる報道の連続はそ

の証であろう。

公民館は有能な人材の宝庫。

行革・分権が声高に叫ばれる

今、事業万般を問い、縄張りを

外し住民の意見を聴き、広い視

野で語り、果敢に、課題解決に

立ち向う英断を期待したい。

公民館の前進を信じながら。

(金井町公民館運営審議委員)

◆登壇者紹介

○コーディネーター

小宮 皓様

(荒川町立荒川中学校長)

○話題提供者(発言順による)

・経済界から

小島 啓一様

(新発田商工会議所議員)

・社会教育関係から

森山 ヒナ子様

(新潟県婦人連盟理事長)

・学校教育関係から

皆木 邦夫様

(粟島浦村立粟島浦小、中学校長)

・ジャーナリスト

吉田 紀様

(新潟日報社論説委員長)

公民館大会より 公民館の役割を考える」 公民館活動を求めて 概要報告その1



小宮 皓
今年「学社融合による魅力ある公民館活動を求めて」を副題にして、シンポジウムを深めたいと思ひます。ご存知のとおり橋本内閣の六つの行・財政改革の中に、「教育改革」も追加されました。生涯学習社会構築に向けての公民館の役割は、一層高まっていると考えます。昨年の中央教育審議会での答申では、これからの目指す教育は「生きる力を育成する」ことであり、「ゆとりある教育活動を展開すること」と、学校の目指す方向を示しております。文部省は、これを受けて「教育改革プログラム」を発表し、そして完全週五日制の実施時期を2千3年と明示しました。この中に、学校外の社会との積極的な連携が謳われています。平成8年度生涯学習審議会の答申では、新しく「学社融合」の言葉が使われ、学校教育と社会教育がそれぞれ役割分担を前提とした上で、そこから一歩進んで学習の場や活動など、両者の要素を部分的に重ねながら、一体となつて子供達の教育に取り組んでいくこととする「学社連携」の最も進んだ形であるとしている訳です。具体的には、地域の人が講師として授業に参加したり、地域の社会教育施設を利用して授業をしたり、両者がそれぞれの特色や機能を生かして、もう半歩ずつ相手側に踏み込み、そして協力関係を築くこととされていようです。この「学社融合」による魅力ある公民館活動を模索するのがこのシンポジウムで

すので、前向きな二二つな話題提供をいたしたいと思ひます。
最初は経済界から、新発田商工会議所議員小島啓一様です。小島様からは生涯学習と産業界との関わり、公民館活動、情報化社会等について話題提供をいただきます。



小島 啓一
(紙面の都合で、生涯学習関係は一部割愛)

業界からの公民館活動に要望というところで、「生涯学習社会を目指した公民館活動を産業界から考える」ということで、考えてみました。そのキーワードは、三つほど考えました。その一つは国際化、二つ目は情報化社会、三つ目は社会の欧米化ということです。まず、国際化です。昨今テレビを見ていると、どんどん外国からの情報が入ってきております。それからまた、我々も海外に出る機会がものすごく増えたと思ひます。

例えは20数年前、海外に行くことは大変なこととして、やきもすれば水杯を交わして出かけていくなんていう風景も見られた訳ですが、最近ではちょっと隣へ行くという感覚で、若い人あるいはいろいろなサークル、グループがほとんどに気軽に海外へ出ています。実は産業界もそうできて、昨今の出高で海外で作った方がより安い物ができるといふふうなことで、工場を海外へ移転している会社が大変多いんです。これは何も首都圏ばかりのことではなく、この村上市でも、あるいは新発田市で

も沢山の会社が海外へ出ております。そこで海外へ出た時に何が一番大きな問題かというところ、それはやはり言葉なんです。私達は学校で英語は習いますが、その外の言葉は大学で習うことぐらいなもの、ほとんど接する機会はありません。この辺が公民館活動で大きな役割をしてもらっているなと思ひますが、例えば新発田市の場合は、中国語、韓国語。それと逆に外国人に、日本語を教えている、そんな活動をしていただいております。従いまして、英語だけでも助かるんですが、海外へ行きたいなという時に、ちょっとこの辺のところをかじっていくと、これが全然出てからが違ひまして、大きな成果が挙がっているのではないかと思ひます。

それから情報化社会です。コンピュータというのは、この近年大変な普及をしております。皆さんの中でもコンピュータを自在に使いこなしておられる方があって、非常に詳しい方が沢山おられると思ひますが、とにかくコンピュータによつてこれからの社会は変わっていくな、と思ひます。これは社会を根底から変える現代の産業革命だ、といひ切つている人もおります。これは何かといひますと、世界的なネットワークが居ながらにして構築できるということなんです。情報の情報化といひますが、例えば今ニューヨークの情報が欲しいな、あるいは不足の情報が欲しいなといった時に、その情報が目の前のコンピュータでパッと手に入れることができるということなんです。これは、産業界を根底から覆すような重大なことなんです。商売といひるのはどっちかといひると情報のギャップによつて、生きていけるという部分が多ございまして、例えば橋本のトロというの非常に日本では有名なんですが、ちょっと前はアメリカの東海岸の方では見向きもしなかつたということなんです。そこへたまたま日本人が見えた、これは勿体無いと日本へ持ってきたらすぐ価値が出た。この情報のギャップが商売の一つなんです。これがこのコンピュータによつて、ギャップがどんどん無くなつてしまふということ、大変な社会の大きな革命なんです。公民館もコンピュータ教室をやることによつて、相当社会に貢献するのではないかと、感じております。

それから、もう一つは社会の欧米化ということなんです。ずうーと日本の社会は、土曜日は働く、あるいは学校へ行くといふことで、日曜だけはお休みだ、という社会だった訳ですが、もうちょっとすると完全2日制になるので、余暇時間が多くなるということなんです。この余暇時間の利用の仕方が、これからの大きな問題になると思ひます。ただ家でテレビを見ながらゴロゴロ休んでいるのも余暇時間の使い方かもしれません。この時間を利用してこそまた自分の教養を高めるとか、それから何かをするといふことが大事な時間だと思ひます。海外へ行つてよく思ひますが、我々日本に住んでいれば日本人だと思ひますが、海外へ行つてみて初めて、日本人ってこんなじゃない、もっと日本的なものがあるんじゃないかな、と、しみじみと悟る訳なんです。とにかく日本人がこれか

特集 第48回 新潟県

「生涯学習をめざした —学社融合による魅力ある

シンポジウムの



ら世界の中で活躍するために、ほんとはこれから、ひいては生涯学習ということ、公民館の果たす役割は大変大きなものがあるかと思っています。

小宮 つぎに社会教育関係から新潟県婦人連盟理事長森山ヒナ子様です。森山様からは青少年の健全育成、大人のいじめ、婦人会での取組み、健康への取組みについて話題提供をいただきます。



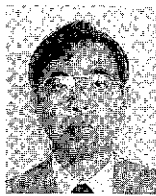
森山
(紙面の都合で婦人連盟の活動紹介等、割愛)

私たちの活動は生まれた時から一生を終えるまでの幅広い、そして生活に密着した地域活動であると思います。母として、主婦として、女性として、子供達が心身共に健全に育ってほしい。みんなが楽しく、安心して生活が送れるようにとの願いをこめて、環境の浄化に努めてまいりました。毎日のように殺人、いじめ、自殺などの話が多くなりました。何故こんな世の中になったのでしょうか。昔は、子供は地域の宝として地域ぐるみで育ててくれました。どこの子でも叱ったり、褒めたり、みんな考え、知恵を出し合い、支え合って育ててきました。今は違います。自分の子供は自分の手で育てる、地域に関係がない、自分の子供だけが成績が良ければ、そして良い職場に就職できれば満足、という人が増えてきております。学校教育も点数が優先する教育のように見えて仕方ありません。少し成績の悪い子は、落ちこぼれと相手にされな

い。先生とゆっくりに話す時間もない。家に帰っても親不在の家庭が多い。周りに訴える人が誰もいない。誰に頼れば良いのだろうか。家庭教育は大事ですが、子供との対話の時間が持てない家庭が増えてきていることを知ってほしいのです。家庭で、地域で、学校で、行政で、やるべきことをそれぞれ分担し、問題を共有して解決していくことができないものでしょうか。学校教育の中に今もやっておられるかとは思いますが、けれどもぜひ組み入れて欲しいこと。特に、小学校の時分からやってほしい。生かされている命の大切さ、生きるというものの意義、健康であるための食生活、習慣、高齢者との触れ合い。学校の先生や母親だけでは教えきれない問題を、社会の一線で、各々の分野で働いている人が語り伝える指導計画を、組み込む方法を考えて欲しいと思います。ある会合でこんな話がありました。成教の良い子は、高校、大学を出てみんな外に出ていってしまふ。地元に残っている子はどうか。他人の子はどんな目に余る行動があっても知らん顔している、関わりあいにたたくないから。そのくせあっちこっちで尾ひれをつけて、面白おかしく話題にして笑っている。モデルになるべき大人が一番問題ではないでしょうか。既に差別して見ている現状を見た時、本当に驚きました。子供のいじめ、非行をとやかくいう前に、大人の教育が先ではないだろうか。そこに住む人、教育者、先生、みんなが幸せでなければ育つ子供は幸せにならないのではないのでしょうか。誰の上でも下でもない関係、平等なつき合いの中にこそ、可

能になる自己認識、悲しさを悲しい、苦しさを苦しいと、自分を語る言葉を持つ一人の人間として喜びをもって生きることのできる社会になれたら本当にいいと思います。そのために家庭、地域、学校、それぞれの果たすべき役割に大きいと思います。すべての文化を美しき綺麗なもので、次の世代へ引き継ぐ責任を一人一人自覚して、実践すべきではないでしょうか。「学社融合」この私の発表の中で、もし取り入れていただけたら幸いです。

小宮 森山様からは県婦人連盟の活動を通して、学校だけでは教えられないことが沢山あるんだと。今まで学校ではいろいろなきことを取り込んでバックアップです。しかし、学校だけでは教えられないことがあるんです。だからこそ、今こそ行政とタイアップして、連携をして、融合して、人間教育をしていかなければならない時なんだ、ということであつたかと思えます。それでは今回、学校教育の代表は初めてですが、皆木先生お願いいたします。



皆木
(紙面の都合で一部割愛) 私は、テーマをどんなふうに考えようかと思つた訳ですが、今日の資料にあります、学社融合ということを国立青年の家の協力者会議の提言にありますように、青少年教育施設といつたのをそっくり公民館に置き換えたらどうだろうか。正にこの学社融合というのは、公民館活動の活性化充実を図る

大きな契機になるのではないだろうか、そんなふうに考えました。学校には様々な課題が存在しておりますが、その中で、21世紀を心豊かに生きる子供、生きる力の育成を目指して取り組んでおります。しかしながら、知識のみという間接体験だけでは限界があるのでないか、と思っております。そこで今、多様な学習経験とか体験活動を通して望ましい子供の育成を図っております。例えば県教育委員会では、いきいきスクールステップアップ活動を通して、各学校の課題解決を目指しておりますが、これは学校だけでは実現不可能です。今ほど森山様からも話がありましたように家庭、地域と連携した教育活動が行われなければ、時代を担う子供達の望ましい育成には支障があるのではないかと感じております。その仲介の役割を公民館に期待されているのではないかと、考えております。

そこで、魅力ある「公民館活動」を求めて、ということですが、私は前任の経験から思ったことが幾つかあります。その中で一番に思うことは、これからは公費―税金を使ってでもやる事業に取り組んで欲しいということだと思います。地域住民からのアンケートをとってその要求に添った事業を行えば参加者は沢山集まります、実績が残りますので、行政からいけば望ましいのかも知れません。しかしながらこれからは、民間カルチャーの動向等もありませんので公民館がお金を使っても、結果として参加者が少なくても、出席率が多少悪くても、その地域にとってし

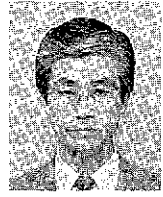
(前頁より)

なければいけないこと、それをこれから公民館がやっていたかなければいけないのではないかと、思っております。

この4月から学校に行つた訳ですが、でも、「学社融合」ということが職員の方からなかなか出てまいりません。その辺、毎日の活動に追われている学校側にも、一つの問題があるかと思ひます。しかも新採用の職員は、3年で替わります。そうしますと、地域の教育力を生かしたいと思ひます。なかなか地域理解が十分でない内に次に転換してきます。学校を預る者として、これから工夫していかなければいけないと思ひました。そこで、粟島浦小・中学校の事例から考えてみました。粟島浦村について簡単に説明させてもらいます。周囲約20Kの島でして、岩船港から高速船で35分の所にあります。自然と人情に恵まれており、小学生が21名、中学生が8名、合計29名の小さな学校です。しかし子供たちは大変純真で、所謂学校らしい学校として毎日気持ちよく勤務しております。その活動の中に児童・生徒が一緒に、ワカメ採りを行い乾燥して袋詰めをして販売する訳ですが、これは勿論PTAの全面的な指導と協力がなければできません。その下で子供たちが一緒にやるといふ活動です。それをもう少し角度を変えて見ます。例えば現在その袋詰めにした後に入れる商標ですが、村の物を使っております。それを子供たちが作った物を入れる。しかもそこに子供たちのメッセージを添えて、それを公民館や漁協の力を借りて、販売ルートに乗せてもらう。……というだけ

でなくて、さらに公民館や村のイベントなどの場合にデモンストレーションに使ってもらったりして、子供たちの活動が地域振興の一助になるようなものに発展できないだろうか。子供たちはその活動を通して、自分たちの島をもう一度再発見する。その仲介・企画に公民館の役割があるのではないだろうか。……というふうな考えております。たまたま粟島浦村という人情にあふれる所で子供たちが安定しておりますので、この様な事を考えることができる訳ですが、私は学社融合というものは、これからどうしても取り組んでいかなければいけない、学校にとつても、学校の教育課題を解決するために、どうしてもしなければいけないこと。そしてそれは裏返せば、公民館活動の活性化のいい機会、……というふうな促しておりますので、是非これからの、このような視点からの公民館の多様な活動を期待しているところであります。

小宮 最後にジャーナリズム界から、新潟日報社論説委員長吉田紀様です。吉田様からは生涯学習の必要性、地域づくりを公民館との関わりの中で、話題提供をいただきます。



吉田 マスヨシの立場でこのを言うというの、は、ちよっと私自身余り

タッチしておりませんので、多分的はそれのことをいうことになるんだらうと思ひますが、その辺はどうぞお笑ひになってください。話は三つに分けてお話ししようかと思ひます。

まず最初ですが、今日のこの「生涯学習社会をめざした公民館の役割」という、このテーマをじっと見た訳ですが、そこでまず真つ先に「生涯学習」って何なんだらうと。「生涯学習」が目指すものつていうのは、一体何なんだらうと、そう考えた訳なんです。これは、いろんな学者先生方の解説もあるようですが、私は私なりに解釈してみました。それは、人として輝いている人間でありたいと。そう願う心を満たすことが、おそらく「生涯学習」の目指すところなんだらうと。物が豊かになり、物に満たされています。しかしそれで満足するだけではなくて、もっと心が満たされたい。もっと人間として輝いていたい。そういう思いを満たすために学習を続けることなんだらうと。「人間として輝くこれは一体どういふことかな。そう考えた訳です。その人にとって、手ざわりの確かな生き方をしている、そういう実感をもつことではないだろうか。

それを実現する手段の一つとして、私はボランティア活動に注目したいと思ひます。ボランティア活動をするこ

ランティア活動というのは、正に生涯学習そのものであると。そうであるなら、公民館の役割として、ボランティア活動をもつと積極的支援する、推進するための取組みを、もつと多彩に展開してほしいと、願う訳です。例えば、ボランティア活動のレベルを高めるための取組み、あるいは、ボランティアグループを交流させる取組み、またボランティアの需要と供給を橋渡しをする取組み、とにかく公民館にすれば、ボランティアに関する様々な情報を全部揃っていると。そういう状況を作り出していただけないものかなと、考える訳です。そもそもボランティア活動は、地域の生活と深く密着した形で展開される訳です。公民館の役割として、地域の拠点であるつとにするならボランティア活動を支援し、推進する取組みの意義は非常に大きいものがあるのではないだろうかと思ひます。今後ボランティア活動は、ますます必要になってくるのではないだろうか。高齢化が大変な勢いで進んでおります。その一方で小字化があります。小字化が進むということは、働き盛りの世代ももつとはつきりいへば、税金を納める人、あるいは社会保険料を納める人、そういう立場の人数が少なくなつていくと。その結果、行政の浸透具合も今後だんだん厳しくなるのではないかと行政サービスが、なかなかままならなくなつてくる。そういう状況が生まれてくると思ひます。一方、住民側はどうかという、価値観の多様化が一層進んで、様々な形の行政サービスを求めていくようになりまして。しかし、行政サービスはままならなくなる。その

穴をどうやって埋めるか。それはやはり住民たちの活動ですね。それはボランティア活動といつてもいいと思ひますが、その住民活動で埋めていかなければならなくなつてくる訳です。ボランティア活動は、人が人として輝きたいという、そういう願いを満たし、同時に地域づくりそのものと、いうことにもなる訳です。公民館の役割として、ボランティア活動の支援活動を展開するというのは、正に地域づくりに大きく貢献すると、そういうことになるのではないでしようか。

話題の二つ目を申し上げたいと思ひます。最近、はやり言葉の「地方分権」と「生涯学習」そして「公民館」とこの三つを考えたと思ひます。時代は、着実に地方分権に向かつて流れていると思ひます。「地方分権」って、一体どういうことなんでしょう。その理念は、地域の有り様に、今までのように国が主導して決めていくんじゃなくて、地域の住民が決めていくと。そういうことが「地方分権」の理念であります。というところであれば、私たちが住民は毎日の生活の中から課題を見つけて、生活者として常識を行政に反映させる、ということが大切になつてきます。そういう意識を生涯学習の中で学ぶ必要があるかと思ひます。あるいは、生活者としての視点、生活者としての常識、それで課題を見つけて行政に反映させるという具体的な体験を、一つ一つ積み上げていくことが大切になつてくると思ひます。これは、正に意識革命の問題であり、生涯学習の大きなテーマではないでしようか。

（この続きは次号へ）

（この続きは次号へ）

（この続きは次号へ）

（この続きは次号へ）

（この続きは次号へ）

（この続きは次号へ）

サークル交流

香りと共に優雅な気分

アネット

私の知人にハーブの教室を他市に開いている方がいます。ある日、その作品を初めて見せてもらい、感激してしまいました。こんな素敵な彼女を放っておく手はないとばかりに、五泉にも教室を開くことをその場で決めてしまいました。

20名ほどすぐに集まり、月に一度、細く長く続けようと、6年が過ぎようとしています。

ラベンダーの香りを基調として、ポプリやサシェ、ハーブ石



けんやハーブピロー、クリスマス飾りやおひな様。時には生のラベンダーで、パンノルズや花かご、12月にはリース。不器用な私は四苦八苦することが多いのですが、優雅な香りに誘われて、楽しい一時を過ごしています。

次々に素敵な宝物が増えていくのですが、お人好しの私のこと、余りのうれしさに、すぐプレゼントをしてしまいます。

あわただしい毎日、時には素敵な香りで、潤いのある生活をしていきたいものです。

(五泉市公民館)

五十嵐 吉子 記

ダンスを生きがい

横越町シルバーダンスクラブ

私達のダンスの目的は、健康でしかも活力ある老後を送り、会員相互の親睦と潤いある体力作り、及び福祉の充実を図ることにあります。

平成六年五月九日に、横越町中央公民館で発会式を開催しました。結成後は毎週木曜日午後一時から三時まで、会員五十二名で練習を行っています。



現在は結成から三年も経ち、ブルース・ワルツ・ルンバ等の練習に励んでいます。また休憩時間には、地域のことやいろいろと夢のある話を交わす、笑いのあるダンス場として進めています。

私達会員は先生の指導の下、頑張つて良い汗を流しています。今後はダンスパーティーや親睦旅行など実施して、老後の生きがいとして頑張る、さらに公民館を町の茶の間として活用したいと思っています。

これからはさらに仲間作りをしながら老後や家族のために、地域社会のために頑張る、進んでいきたいと思っています。

(横越町議会議員)

茅原 新一 記

新津市生涯学習課

主事 山口 穰 様

七月一日付の機構改革により中央公民館の名称が「生涯学習課」に一本化され、寂しさを感じている中で、若さと独自のヴァイタリティで、これまでの公民館事業を一手に引き受け、年齢、性別を問わず多彩な人達と元気に何でも取り組んでいく、今の公民館事業には欠かせない存在である。



中でも、市内の若者達を中心に

なつて活躍している演劇サークルの相談相手や会場などの幹旋に、昼夜、休日を問わず奮闘し、公演を成功させるなど、大変喜ばれている。

現在は十月に閉館する新津市美術館での、初めての市美術展覧会の企画や、「文芸にいつ」の編集に、ますます忙しい毎日をご過ごしている。

一方家庭でも、奥さんが国際交流協会に席を置き、夫婦揃ってボランティア活動や国際交流にも積極的に参加しているとても爽やかな夫婦である。

(生涯学習課 小島 静子 記)

素顔拝見

関川村教委社教課兼公民館社会教育主事 小池 毅 様

採用と同時に公民館(社会教育課)へ配属され七年目、今では公民館の隅から隅まで手にとるようになり分かった「タケちゃん」と呼ばれる中堅職員。

高校、大学時代は、大きな体を「武器」に相撲に励み、国体出場三回を果たした。その精神が数々の公民館活動の推進に発揮されている。毎日出勤する姿は超特大のトレンパンにTシャツ姿。「男は外見より心だよ」と本人はいう。まったくそのとおり。

仕事においては、体の大きい割



に心配り、心配りも忘れない。社会体育を主として担当する傍ら、施設の維持管理、視聴覚教育、高齢者、幼児教育の指導、そしてスポーツ少年団、体育協会などの事務局を背負って黙々と頑張っている。

体の大きいのと比例して包容力もあり、積極果敢な姿に拍手を送るとともに、今後一層の磨きをかけることを期待している。

(関川村社会教育課)

課長 近 正七 記

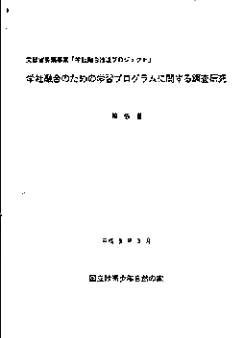
恵贈資料紹介

学社融合のための

学習プログラムに関する研究

平成8年度文部省学社融合推進「体験学習プログラム開発事業」の委嘱を受け、学校による青少年教育施設利用の現状や課題を明らかにし、学社融合の視点から学校の多様な利用方法、形態に対応しうる学習プログラムの開発を目指して研究活動を推進されたもの。報告書の内容は、(一)研究のねらいと経緯(二)学

社融合推進の理論的背景(三)学社融合のための学習プログラムに関するニーズ調査(四)体験学習プログラム開発の経緯と課題(五)推進上の課題と今後の展望等。



国立妙高少年自然の家



「デイベート」で学校が変わる

山田小方式の提案

宗村奎助 編著

明治図書

(価格一九六〇円)

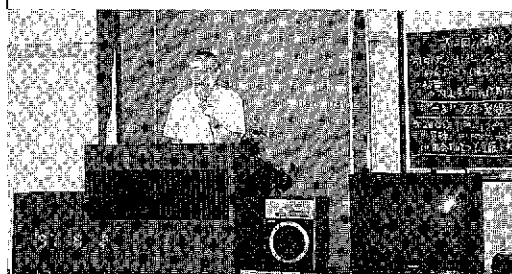
図書紹介



著者が黒崎町立山田小で「デイベート」討議法を導入し、子ども・教師・地域を見事変容させた実践記録です。著者と「デイベート」の出会い、パリ日本人学校勤務時、現地採用フランス語教師が白らの待遇改善のためこの手法を使って交渉し、フランスでは小さい時から「デイベート」を教えられ、人と論とは違う」といふ返答から学んだとか。

著者は現在、新潟市

第12回公民館史研修集会



97・8・2(土)〜3(日)

報告発表中の大島村長 内山克行様

標記研究集會は、長野県栄村 切明温泉「雄川閣」を会場に、公民館活動の歴史と現村長の地域づくりの活躍から生涯学習と公民館のあり方を学ぶ、という主旨で開催され、全国各地から四十余名の熱心な研究者が参加した。

公民館の先達田村達夫様と、前事務局長上村捨二郎様のお誘いを受け、私もこの研修に参加したが、得るものが実に多かった。とくに、戦後永らく公民館職

秘境―秋山郷最奥のいで湯を会場に

お二人の元公民館主事、現村長から学ぶ

員として地域の学習援助活動に尽力され、役場での地域づくりを経て現村長として村の経営に携わっておられる東頸城郡大島村村長の内山克行様、長野県栄村村長の高橋彦芳様の報告発表は、実体験に基づききめ細やかな配慮の下、アイディア豊かな村政を展開され、頭の下がる思いがした。しかも豊富な資料と、村人へのひたむきな愛、そして先見性のある経営ぶりも説得力十分であった。(鈴木記)

あとがき

◇県大会シンポのテープ起こしで、今回もまた村上鈴木敏夫館長さんには、大変お世話になりました。感謝あるのみです。

表紙解説

牛の角突き

江戸時代からの歴史を今に伝える「牛の角突き」は、新緑の5月から初雪の舞う11月まで行われます。わが子同様に育てた「闘牛」に面綱をつけ、本場所に曳き出す飼主の表情には、自信と不安が微妙に入り交じります。

発行所 新潟県公民館連合会

〒951

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【TEL・FAX (025)224-6073】

発行人 会長 今井昭友

編集人 事務局長 鈴木友夫

【定価1部150円 年共1,800円】

関プロ大会出発前、ぎりぎりのところで九月号の月報原稿渡しとなり、木更津市の前泊も最終便近くの到着となりそうでした。相変らず慌ただしい日々です。(鈴木記)